

# 行歯会だより (創刊号)

2005年6月 (毎月発行)

(行歯会=全国行政歯科技術職連絡会)

## ●行歯会の発足に寄せて

何でもやれる行政マンをめざそう！  
行歯会はいろいろな情報を提供します！

行歯会・会長 石上和男  
(新潟県福祉保健部健康対策課長)



行歯会の会長を務めている新潟県健康対策課長の石上です。

日本の歯科保健は、地域における先進的な取り組みが他の地域に伝播しながら育ってきました。また昨今の社会のIT化により、地域間の情報交換や連携は進めやすくなっています。行歯会(全国行政歯科技術職連絡会)では、このような流れを受け、専門家集団として歯科保健の発展向上に寄与することを目的としています。

私が皆さんに望むことは、歯科専門家として地域住民に最高の歯科保健水準のサービス提供をできるような施策企画ができることはもちろん、何でもできる行政マンをめざしてほしいことです。何でもできるという意味は、歯科だけにこだわるのではなく、歯科保健施策立案・実

行のノウハウを生かしながら他の施策や業務もできる能力を身に付けて欲しいということです。何故かといえますと、行政マンとして経験を積めば当然ながら様々なポストに就くことが要求されるからです。そのための情報やアドバイスは極力提供するつもりですし、経験豊かな全国の仲間が必ずや親身になってお手伝いすると思いません。これも行歯会を設立した一つの趣旨です。

私はこれまで新潟県において歯科保健担当として十数年、その後は保健所の管理職6年、介護保険室長6年、福祉事務所長2年、健康対策課長1年と経験してきましたので、この意味でも少しは皆さんのお役に立てるものと考えています。どうか、多くの仲間から入会をいただくようお願いします。

### 行歯会とは

IT時代の特長を生かして、電子メールやインターネットを活用することにより、全国の地方行政に勤務する歯科医師、歯科衛生士の連携を密にし、知識および技術の研鑽、情報交換等を行うなどで、日本国民に最高水準の歯科保健(口腔環境)を提供することをめざして活動する、そういう会にしたいと思っています。

行政歯科技術職として、互いに助け合うことにより、プロ意識を持ち、常に胸を張って元気に仕事に取り組めるようになりたいものです。

### 行歯会の主なサービス(無料)

- ・メールによる情報提供:  
行歯会だより、近歯連ニュース
- ・メーリングリストによる会員間の交信  
情報交換、意見交換  
質問に対するアドバイザーからの回答  
ファイル共有機能

### 主要役員

会長 石上和男  
副会長 北原稔、井下英二、楠田美佳  
事務担当理事 中村宗達、大西宏昭、永瀬吉彦、山田善裕、長優子

#### ブロック理事

北海道 佐々木健、山下真知子  
東北・甲信越 石上和男、高橋明子  
関東Ⅰ 鳥山佳則、高澤みどり  
東京 矢澤正人、廣瀬友美、長優子  
関東Ⅱ 北原稔、堀正子  
東海 中村宗達、金森いずみ  
近畿 井下英二、得津康子  
中国・四国 梶浦靖二、藤田幸子  
九州・沖縄 岩瀬達雄、楠田美佳

#### 事務局

国立保健医療科学院・口腔保健部  
(〒351-0197 埼玉県和光市南2-3-6)

## ●事業紹介(隔月連載)

※ 本コーナーでは、行歯会の理事によるリレー連載(隔月)により、各地で行われた特色ある歯科保健事業を紹介します。

### インターネットを利用したモニタリングシステム

岩瀬 達雄(佐賀県杵藤保健所・副所長)

健康づくりを効果的に進めるためには、数値目標を設定し、定期的に評価を行うことが当たり前となっています。しかしながら、住民の情報を得ることは大変な作業です。何とか楽をしてデータがとれないか、これがこの事業の発想です。

佐賀県では、5年ごとに20歳以上を対象とした「県民健康意識調査」を実施しています。それによると、県民の70%がかかりつけ歯科医をもち2人に1人が年に1回以上歯科を訪れています。県民の歯科保健情報を知るにはかかりつけ歯科医の協力を得るのが効率的であるといえます。ただ、どうすればあまり手間をかけずにデータを収集できるのか、いろいろ検討した結果、インターネットを利用することにしました。名付けて、「8020モニタリングシステム」です。この事業は、厚生労働省医政局歯科保健課所管の平成13年度8020運動推進特別事業として、大部分を佐賀県歯科医師会に委託して実施しました。

事業を進めるにあたり、県、県歯科医師会、システムエンジニアからなる

8020IT推進委員会を立ち上げ、システムの構築、運用について検討しました。

このシステムの条件は、

- ・初心者でも簡単に設計、変更できる入力フォームであること
- ・入力されたデータは自動的に集計されること

・その結果は、ホームページにリアルタイムで反映されること

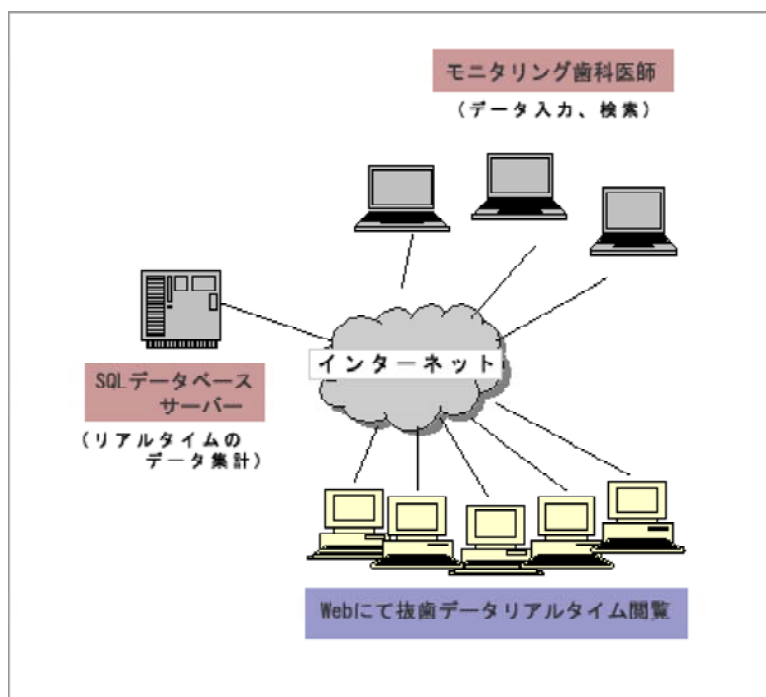
とし、「8020」の妨げとなる歯の喪失についての情報を収集することにしました。

平成13年11月には、県歯科医師会の全会員(301の歯科医療機関)を対象とした抜歯調査を実施し、その結果から年代別・性別の喪失本数、抜歯原因等についてホームページや新聞広告で広報するとともに、平成14年1月からは毎月県民が喪失した歯の本数を全数調査を基に推計し、ホームページ上で情報提供しました。

図1は、8020モニタリングシステムの概要です。14年度は50名のモニター歯科医で運営しました。

楽をしてデータを集めよう・・・という試みでしたが、IT時代とはいいながらもまだまだ十分に普及しているとはいえ、簡単にはいきませんでした。しかし、本事業を契機に佐賀県歯科医師会ではIT化が進み、すべての会員がIDとパスワードをもち、ホームページの充実、活用がなされるようになりました。

ちなみに、佐賀県は人口約87万ですが、多い時には1か月に1万本を超える歯を失っていました。抜歯の原因や本数などの調査結果については、佐賀県歯科医師会ホームページ <http://www.saga-dental.or.jp/>を御覧ください。



## ●ニュース

### ・日本歯科医師会「今後の歯科健診のあり方検討会」報告書

本年1月、日本歯科医師会より「今後の歯科健診のあり方検討会」報告書が刊行されました。

成人歯科健診事業の低受診率に頭を悩ませている歯科保健専門職は数多いと思いますが、本報告書は、単に成人歯科健診事業の受診率向上対策を論じるだけでなく、本事業の持つ根本的な問題点にメスを入れ、今後の対応について「専門家を中心とした歯科保健から、受診者を中心とした口腔保健へと歯科医療専門家側の意識の転換が必要である」として、下記に内容を結論として述べています。

『その結果、歯科健診には、①1次予防に明確に寄与すること、②受診者の満足感の向上、③効率的でしかも効果的な歯科健診、④行動科学・健康学習理論に基づく健康教育の導入、⑤地域における行政・職域・歯科医療機関の連携と生涯保健、が基本的な要件となると考えられた。

今後の具体的な方策は、①受診者や健診実施者が個別に選択できる歯科健診プログラムの提供、②健康教育を中心とした歯科健診プログラム、の2点を基盤とした歯科健診への転換を図ることである。さらには、この新しい歯科健診プログラムの評価と継続的な質向上のための歯科医師の研修システムやモデル事業の実施が求められる。』

今後の成人歯科保健事業の方向性を知るうえで必須の内容ですので、ぜひ御覧ください。

本報告書の全文は、メーリングリストのファイル共有機能（ブリーフケース）を用いると皆様のPCにPDFファイルとしてダウンロードすることができます。

### ・8020推進財団「健康日本21・歯の健康データバンク」

8020推進財団では、このたび国立保健医療科学院・口腔保健部の協力を得て、『「健康日本21・歯の健康」データバンク』を作成し、同財団ホームページ（<http://www.8020zaidan.or.jp/>）上から公開しています。URLは、下記のとおりです：

<http://www.8020zaidan.or.jp/kenko21/index.html>

本データバンクは、全国の主要自治体（都道府県、政令指定都市、特別区、中核市、保健所政令市）における健康日本21「歯の健康」の目標値等に関する現状値データを収集したもので、行歯会会員の皆様から提供されたデータが多数収載されています。日本の各地では歯科保健に関して有用な調査が実施されていますが、今までは、これを一括してデータ収集を行い公開するという仕組みがなかったため、各地の状況が全国的に伝わりにくい状況がありましたが、本データバンクを利用することにより、各地のデータが利用しやすくなります。

収載されているデータは、下記のとおりです。

#### ・乳幼児期：

3歳児におけるう歯のない者の割合（市町村・都道府県データ）

間食（甘味食品・飲料）の摂取回数、フッ化物歯面塗布の経験率

#### ・学童期：

12歳児 DMFT、における1人平均う歯数

フッ化物配合歯磨剤の使用、口腔状況にあった歯口清掃法の習得、フッ化物洗口の実施

#### ・成人・高齢期

80(60)歳 20(24)歯以上の自分の歯を有する者の割合、一人平均現在歯数

歯周炎に罹患している者（CPIコード3以上）の割合、定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている者の割合

定期的に歯科検診を受けている者の割合、歯間部清掃用器具を使用している者の割合

なお本データバンクは、新しいデータを逐次、追加入力していく予定です。

## ●お知らせ

### 1. 第26回全国歯科保健大会と関連行事

日時 平成17年11月12日(土)午後  
会場 新潟県新潟市 朱鷺メッセ(新潟市万代島)  
内容:①特別講演 毛利 衛

- ②シンポジウム 「多重的な予防の実践」  
基調講演 花田 信弘(国立保健医療科学院)  
シンポジスト 葭原 明弘(子供の歯を守る会)  
深井 稔博(深井保健科学研究所)  
大久保 満(静岡県歯科医師会)

#### 関連行事

- 平成17年11月11日(金)全国歯科保健推進研修会  
全国の歯科保健行政に勤務する歯科医師、歯科衛生士の研修会
- 平成17年11月12日(土)～13日(日)  
デンタルショー及びミニセミナー、テーブルクリニック

### 2. 第23回地域歯科保健研究会(通称:夏ゼミ)

日時 平成17年7月30日(土)10:00～17:00  
平成17年7月31日(日) 9:30～12:30  
会場 奈良県歯科医師会館(〒630-8002 奈良市二条町2丁目9-2)  
テーマとスケジュール

(仮題)「住民に喜ばれる成人歯科保健対策とは何か」

初日(7/30)

特別講演(予定)

健康づくりフォーラム・ワークショップ事業報告(豊中市 前健康づくり推進課 中村徹夫氏)

インターネット禁煙マラソンの成功の理由(奈良女子大学教授 高橋裕子氏)

グループワーク

懇親会

2日目(7/31)

霞ヶ関情報(国の歯科保健の動向)(予定)

グループ別討議まとめ～発表

プレゼミ

日時 平成17年7月29日(金)18時～19時30分

場所 奈良県歯科医師会館 3階 視聴覚室

講演 全人的復権を支援するための口腔機能リハビリテーション」について

舘村 卓(大阪大学歯学部附属病院)「

### 3. 国立保健医療科学院の研修

- 歯科衛生士研修

研修期間:平成18年1月23日(月)～2月7日(火)

募集期間:平成17年10月3日(月)～11月2日(火)に受講願書を提出

※詳しくは、国立保健医療科学院のホームページを参照(<http://www.niph.go.jp/>)

- 遠隔教育「口腔保健」

期日は未定ですが、今年度の上半期中に実施する予定。近日中にホームページより連絡予定。

【注】上記の赤字(下線)部分は、6月1日付で配信した版で誤りがあった部分です。